

# 第2期 秩父別町 子どもの読書活動推進計画 (令和3年度～令和7年度)



令和3年3月

秩父別町



# 目次

## 第1章 計画の基本事項

- 1 計画策定の趣旨 . . . . . 1
- 2 計画の位置づけ . . . . . 1

## 第2章 第1期計画期間における取組と課題

- 1 子どもの読書活動の現状と課題 . . . . . 2

## 第3章 第2期計画の理念と推進方針

- 1 基本理念 . . . . . 3
- 2 計画推進の方針・体系 . . . . . 4

## 第4章 計画推進のための具体的取組

- 1 子どもの読書活動を深める機会の提供・充実
  - (1) 家庭における読書活動の推進 . . . . . 5
  - (2) 地域における読書活動の推進 . . . . . 5
  - (3) 学校における読書活動の推進 . . . . . 6
- 2 子どもの読書活動を支える読書環境の整備・充実
  - (1) 図書館資料の整備・充実と活用促進 . . . . . 7
  - (2) 関連施設の図書資料の整備・充実と活用促進 . . . . . 7
- 3 子どもの読書活動に関する情報の普及・啓発
  - (1) 子どもの読書活動に関する情報の収集・提供 . . . . . 8

# 目 第1章 計画の基本事項 目

## 1 計画策定の趣旨

近年の電子機器・情報通信技術の発達・普及はめざましいものがあり、子どもでも容易に情報メディア・情報媒体に触れることができるようになりました。その一方で、子どものテレビやインターネットサイトの見過ぎ、ゲームのし過ぎに伴う文字・活字離れを指摘する声も聞かれます。また、幼児期からの読書習慣の未形成などにより、子どもの活字離れ・読書離れや言葉の乱れが顕著になってきたとの指摘もあります。こうした状況を受け、文部科学省では電子メディアの普及が子どもの読書活動に影響を与えている可能性があることを踏まえ、その影響に関する実態把握・分析として「子供の読書活動の推進等に関する調査研究」をまとめました。電子メディアの利用においては動画や音楽サイトの利用が最も多いこと、読書の意向がない子どもは普段から読書をしていないことなどが示されましたが、電子メディアの普及と子どもの活字離れ・読書離れ等との相関関係は明らかにはなっていません。

子どもの読書活動は、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけるために欠かせないものです。本を読み・調べることの意義は増すことはあっても決して減ることはありません。子どもの時期から本を読む習慣、本を通じて調べる習慣を確立していくことが重要です。

この計画では、子どもの読書が、「考える力」、「感じる力」、「表す力」等を育てるとともに、豊かな情操を育み、すべての活動の基盤となる価値観・教養・感性等を、生涯を通じて涵養していくうえで極めて重要であり、変化の激しい現代社会の中、自らの責任で主体的に判断を行いながら生きるための情報収集や情報の取捨選択の能力の形成のため必要なものであるという視点に立ち、読書活動がなによりも子どもの世界を広げるものとして「秩父別町教育振興基本計画」に掲げる「自立」した人・「協働」できる人・「創造」性に富む人を育てていく計画とします。

## 2 計画の位置づけ

本計画は、子どもの読書活動の推進に関する法律第9条第2項に規定する子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画として、国による「第4次子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」及び北海道による「第4次北海道子どもの読書活動推進計画」を基本とし、本町における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ策定するものです。

計画の期間は令和3年度から令和7年度の5年間とし、本計画の円滑な推進を図るため、秩父別町社会教育委員会議において遂行状況及び進行について検証します。

なお、計画の策定にあたっては、町の最上位計画である「第6期秩父別町総合計画」、町の教育行政の方向性を示す「秩父別町教育振興基本計画」及び「秩父別町子ども子育て支援事業計画」などの諸計画との整合を図りながら策定しています。

### 1 子どもの読書活動の現状と課題

平成28年度から令和2年度の第1期計画期間においては、「豊かな心を育む子どもの読書活動を推進するまち～本によるコミュニケーション活動を通じて～」を計画の理念として、子どもの読書活動を推進してきました。

#### <主な取組>

- ◇親子で読書に親しむきっかけづくり事業の推進
- ◇家庭教育に関する事業における読書活動の推進
- ◇子どもや親子を対象とした事業の実施
- ◇図書館イベントの充実
- ◇本の貸出の充実
- ◇図書館利用についての学びの場の充実
- ◇記録ノート「わたしがよんだ本」による読書習慣の形成
- ◇学校における読書指導の充実
- ◇学校における読書習慣づくりの確立
- ◇学校の特性を踏まえた魅力ある読書活動の展開
- ◇学校図書館を活用した読書教育の推進
- ◇子供や保護者への図書サービスの充実
- ◇大人から子供まで気軽に立ち寄れる図書館の雰囲気づくり
- ◇子どもや保護者が使いやすい図書館蔵書管理
- ◇図書館と読み聞かせボランティアの連携及び育成
- ◇おすすめの本の紹介や子どもの読書活動に関する事業の周知
- ◇子どもの読書活動に関する事業などの情報発信の連携・協力

しかしながら、参加者の減少から、幼児向け事業である「絵本おはなし会ミニ」を児童向けの「絵本おはなし会」に統合することとしたほか、未就園児の保護者を対象に発行していた「図書館だよりママ☆ぼけっと」を廃止するなど、読書習慣の形成に大きく関わる乳幼児期を対象とした取組により一層の力を注ぐ必要性が明らかになりました。

また、部活動など他の活動により、読書から離れてしまう中高生が読書活動を継続していくことができるような取組も必要です。

1 基本理念

子どもの読書活動は、ことばを学び、感性を磨き、表現力・想像力を豊かにするだけでなく、他者とのコミュニケーション方法を学び、自ら考えて判断する基準を蓄え、社会の中で生きていくための価値観・教養・感性を身につけることにつながります。

特に乳幼児期の読み聞かせは、子どもにとって身体も心も親に抱きとめられ、甘えをも受け入れられ、親からの丸ごとの愛情を感じていただける暖かく幸福な時間となるだけでなく、子どもの知性や感性を豊かにする基盤をつくります。愛情に包まれた読書体験は、子どもの成長とともに、読書の楽しさを気づかせ、感動を与え読書習慣を形成します。

更に、読み聞かせや友達同士による感想交流などは、読書の喜びを広げるだけでなく、自分の思いを表現して伝える力、相手の気持ち・考えを理解・共感する豊かな心を育みます。

「本は人の人生を教えてくれる宝箱である」という言葉があります。ひとが自分の人生で経験することは限られています。読書により他者の考えに触れ、他者の経験を文字を通して追体験することは、何よりも世界に広がりを生み人生を豊かにします。

変化の激しいこれからの時代を生きていく子どもにとって、何事にもしなやかに対応できる、“柔軟な精神力”をもつことが大変重要です。この精神力は過去の偉人など様々な人の考え方や生きるうえでの知恵などを教えてくれる読書によって培われていくものです。

豊かなことばを学び、豊かなこころを育み、幅広い視野や考えを持った大人へと成長できるよう、子どもの読書活動を推進していきます。

**基本理念 「豊かな“ことば”と“こころ”を育む 子どもの読書活動」**  
 ~読書で育み心をつなぐまちづくり~



## 2 計画推進の方針・体系

基本理念「豊かな“ことば”と“こころ”を育む子どもの読書活動」を推進していくため、3つの方針に沿って、発達段階に応じ切れ目なく各事業を展開していきます。

豊かな“ことば”と“こころ”を育む子どもの読書活動

### \*たのしむ\*

#### ◆子どもの読書活動を深める機会の提供・充実

- (1) 家庭における読書活動の推進
- (2) 地域における読書活動の推進
- (3) 学校における読書活動の推進

### \*ささえる\*

#### ◆子どもの読書活動を支える読書環境の整備・充実

- (1) 図書館資料の整備・充実と活用促進
- (2) 関連施設の図書資料の整備・充実と活用促進

### \*ひろげる\*

#### ◆子どもの読書活動に関する情報の普及・啓発

- (1) 子どもの読書活動に関する情報の収集・提供

#### ◆ 子どもの読書活動を深める機会の提供・充実 ◆

子どもたちが読書の楽しさに気付くきっかけをつくり、本と出会い、本に親しみ、読書体験を深められるような仕掛けづくりに努めます。

#### ◆ 子どもの読書活動を支える読書環境の整備・充実 ◆

子どもたちが自ら読書を楽しめるよう、図書資料を使いやすい環境を整え、貸出システムの充実に努めます。

#### ◆ 子どもの読書活動に関する情報の普及・啓発 ◆

子どもたちが読書に興味を持ち、保護者が子どもの読書活動に関心を持てるよう、関係機関の情報共有や幅広い情報発信に努めます。

幼児期

読書に親しむ

小学生期

読書を広げる

中学生期

読書を深める

高校生期

読書に学ぶ

## 第4章 計画推進のための具体的取組

### 1 子どもの読書活動を深める機会の提供・充実

#### (1) 家庭における読書活動の推進

家庭は、子どもが本に興味・関心を持ち、読書に親しむ出発点として重要な役割を果たします。特に幼児期は、読書習慣の形成期として大事な時期です。子どもは周りの大人たちから絵本を読んでもらうことで、愛情に包まれ、読み聞かせの時間が暖かい時間であることを感じ、自然と本に関心を向けるようになります。家庭で絵本を通じた親子のふれあいや読書に親しむきっかけづくりを支援します。

また、家族をはじめとする保護者が読書活動の重要性を認識し、みんなで読書に親しむ時間を共有することが大切なことから、家庭での読書の時間を確保できるように、家庭教育に関する事業の機会を活用して周知を行っていきます。

#### <主な取組>

##### ◇ブックスタート

7～8ヶ月検診受診児を対象として、絵本をプレゼントすることで、家庭での読書のきっかけづくりを行います。

##### ◇乳幼児保育・教育関係機関との連携

こども園、子育てサロン等での図書館職員や地域ボランティアによる読み聞かせを行い、家庭における読み聞かせや読書の大切さを伝えていきます。

##### ◇「家読（うちどく）」の普及

「家読」は「家庭読書」の略語で、家族みんなで読書をすることで家族のコミュニケーションを深めることを目的とした読書運動です。家族みんなで読書の楽しさを共有し、和やかな家庭環境を形成するため、関係機関と連携して「家読」の取組を広めていきます。

#### (2) 地域における読書活動の推進

地域における読書活動の拠点が図書館です。図書館には、誰もが必要な資料や情報を入力できるように蔵書を収集・保管しており、子どもが自らの興味や目的に応じて本を選んだり、物事を調べたりする場所です。図書館を子どもの本の出会いの場として、身近なものに感じてもらえるような動機付けや事業を行っていきます。

また、地域においては、読み聞かせボランティアが複数団体活動しています。このような団体は子どもと本をつなぐ重要な役割を持っています。ボランティア団体と連携・協力体制を構築し、子どもの読書活動を支えるネットワークづくりを推進します。

#### <主な取組>

##### ◇絵本おはなし会

主に幼児や小学生を対象に、読書のきっかけづくりや図書館への親しみの醸成のため、定期的に図書館で読み聞かせや工作教室等を行います。



#### ◇クリスマスお楽しみ会

季節感を味わいながら読書に親しむため、年1回クリスマス時期に、クリスマスを題材とした絵本・紙芝居の読み聞かせや工作教室を行います。

#### ◇おはなしコンサート

年に1度、地域で活動するボランティアの協力のもと、様々な形の読み聞かせを体験する場を提供します。

#### ◇絵本作家講演会

子どもや保護者に絵本の魅力を伝え、読書活動への興味を促進させるため、著名な絵本作家を招聘し講演会を開催します。

#### ◇読書感想画コンクール

幼児・小学生を対象に読書感想画を募集し、子どもの感性を育み、読書への意欲・関心を深めます。

#### ◇図書館利用ルールの学習

放課後児童教室「ちっぷっ子ふれあいスクール」での「わくわくちっぴー体験隊」を活用し、小学生1年生を対象に、図書館やその利用ルールを学ぶ場づくりをします。

#### ◇地域ボランティアとの連携

地域ボランティアと図書館事業、地域・学校連携による体験活動等で連携・協力し、様々な読み聞かせを体験できるようにします。

### (3) 学校における読書活動の推進

各学校での教育過程編成にあたっての基準である学習指導要領においては、言語能力の育成を図るために、各学校において必要な言語環境を整えるとともに、国語科を要しつつ各教科等の特質に応じて、言語活動を充実することや、学校図書館を計画的に利用し、その機能の活用を図り、児童の自主的・自発的な読書活動を充実することが規定されています。

学校図書館の機能を積極的に活用し、全校一斉の読書活動等を通じた読書習慣の定着や読書活動を取り入れた教育活動を推進します。

#### <主な取組>

##### ◇読書習慣づくりの確立

全校一斉での朝読書の実施や隙間読書の推奨により、読書の楽しさに気付かせ、多読の良さを伝えていく指導を行っていきます。また、児童・生徒によるPOPの作製や児童によるブックトークの実施など側面的に読書に興味を持つための取組を行います。

##### ◇各教科における読書指導の充実

国語科をはじめとする各教科・総合的な学習の時間での調べ学習や様々な読書活動の展開により、読書に親しむ態度の育成に努めます。

##### ◇学校図書館の活用促進

児童生徒が学校図書館の使い方や図書の分類などを理解し、学校図書館を積極的に活用しようという意欲を育てます。



## 2 子どもの読書活動を支える読書環境の整備・充実

### (1) 図書館資料の整備・充実と活用促進

図書館は、住民の幅広い学習要求に応えることができるように、多くの分野の図書資料を整備・提供する情報発信の拠点であり、読書活動の中心施設です。

図書館の魅力を伝え活用促進を図るとともに、様々な図書資料を提供でき、利用しやすい環境を整備し、子どもを含むすべての人が読書活動にいそしめる図書館をつくりあげていきます。

#### <主な取組>

##### ◇レファレンスサービスの充実

子どもが望む本や情報を得られるように、また、保護者からの読書相談に対する解決になるように親切・丁寧な職員対応を行います。

##### ◇わたしがよんだ本・私の読書ノート・図書館ポイントカード

読書活動の継続や多読につなげる動機づけとして、自らがよんだ本の記録ができる冊子を、幼児・小学生にはわたしがよんだ本として、中学生以上には私の読書ノートとして配付します。

また、同様の動機づけとして、来館・貸出ごとにポイントを付加し、20ポイントごとに景品を授与する図書館ポイントカードを実施します。

##### ◇本の展示

展示テーマを決めて、そのテーマに沿った図書を展示し、本を手に取りやすい環境づくりを行います。

##### ◇ふれあいギャラリー

町民が手作りした作品を展示する場を提供し、図書館を利用しやすいやわらかい雰囲気づくりを行います。

### (2) 関連施設の図書資料の整備・充実と活用促進

児童・生徒の主な活動場所である学校や放課後子ども教室、子育てサロンやこども園は、こどもが本に出合う場所として大変重要な役割があります。このような場所で、子どもがより多くの本にふれあい、読書活動を深められるよう取り組みます。

#### <主な取組>

##### ◇移動図書事業「わくわくBOX」・「ぶっくBOX」

小学校にわくわくBOXとして、中学校にはぶっくBOXとして、図書館の蔵書ボックスを配置し、児童・生徒の読書の幅を広げる支援をします。

##### ◇各施設への図書館蔵書の配置

子育てサロン室やちっぷっ子ふれあいスクール室に図書館の蔵書を配置し、子どもが図書に接する機会を広げます。

### 3 子どもの読書活動に関する情報の普及・啓発

#### (1) 子どもの読書活動に関する情報の収集・提供

子どもの読書活動が継続されるためには、子ども自身のみならず家族をはじめとする保護者が、子どもの読書活動に関心を持つことが重要です。子どもの読書活動に関する情報をより多く収集し、様々な場面で情報を得る機会を設け、わかりやすく提供していきます。

#### <主な取組>

##### ◇各種通信等の発行

町広報による情報提供を行うだけでなく、こども園を対象とした「としょかんだよりぽけっと」、小学生を対象とした「こども図書館だより」、中学生を対象とした「図書館だより」を定期的に発行し、関係機関と連携して子どもの発達段階に応じた優良図書等の周知・紹介等に努めます。

